

学生チャレンジ企画 実施報告書

初めてのチャレンジ! 今年こそチャレンジ!
2017年度
第8回 **学生チャレンジ企画**



募集!

社会や地域貢献、国際交流、大学の活性化、ボランティアなど、学生の取り組みを大学が応援し、サポートする制度です。

募集期間 4月末～6月

応募資格 本学に在籍する学生(大学院生、留学生別科生含む)のグループ

採用 6件程度を予定(企画に応じて奨励金が支給されます)

※応募方法などの詳細は4月下旬にホームページにて発表します。

主催: 総合企画部 学生生活部

お問い合わせ先

文京キャンパス 広報室

TEL.03-3947-7160

E-Mail: web_pub@ofc.takushoku-u.ac.jp



拓大つながりプロジェクト
～知れば知るほど好きになる～
国際交流愛好会・国際イベント企画愛好会 P3

高尾599ミュージアム
「自然から学ぶものづくり」
高尾599ミュージアムものづくりイベント実行委員会 P5

SNSに気を付けよう
ロールプレイングで学ぶモラル・リテラシー
守山3年ゼミナール P7

HOW TO SURVIVE IN JAPAN
動画で伝える外国人留学生のための日本留学成功攻略ガイド
藤本ゼミナール P9

繋がる4,330km
カンボジア読み聞かせプロジェクト
郵傳ゼミナール P11

学生チャレンジ企画は創立110周年を記念して、2010年にスタートしました。

この取り組みは社会貢献、国際交流、大学の活性化などにつながる活動を積極的に行っている学生をサポートするものです。

第7回となる2016年度は、23件の応募があり、書類選考、そしてプレゼンテーション選考の結果、5件の企画が優秀企画に選ばれました。

この最終報告書は、採択された企画を実施した学生たちの約1年間にわたる活動の集大成です。ぜひ、拓大生のチャレンジ精神に触れてみてください。

スケジュール



ホームページ
HPオープンと連動して学内に募集告知ポスターを掲示しました。



プレゼンテーションの様子
応募全23件のうち8団体が第二次プレゼン審査に進みました。

応募時の参考用として、HP上で過去の応募企画や報告書をアップしました。

4.28(木)

6.3(金)
募集期間

6.17(金)
第一次書類選考発表

6.25(土)
第二次プレゼン審査

6.29(水)
選考結果発表

5団体が優秀企画として採択され、HPで発表がありました。

活動の成果を報告し
グランプリ、準グランプリを決定しました。

7.2(土)
奨励金授与式

奨励金授与式
各団体の代表者が活動への決意表明をしました。



12.3(土)
成果報告発表会

活動の集大成である最終報告書を作成し今年度のすべての活動を終わりました。

3月
最終報告

講評 学生チャレンジ企画を終えて



拓殖大学副学長
学生チャレンジ企画
実行委員長

芦田 誠

学生チャレンジ企画は、国際交流や地域貢献、環境福祉、ボランティアなどの分野で活動する学生を支援するため、拓殖大学創立110周年記念事業の一環として2010年にスタートし、以後毎年多くの企画を支援してきました。

2016年度は過去最高の23件の応募があり、第一次選考の書類審査と第二次選考のプレゼンテーションを経て、最終的に5件のプロジェクトが採択されました。勝ち残った5団体は必要経費によって15~27万円と奨励金に差がつかしましたが、内容的には甲乙つけ難く、いずれも大きな成果が期待されるものばかりでした。

本報告書は、今年度採択された5団体のPDCAサイクル、具体的には実施スケジュール、実施内容と成果、収支報告、反省点を示したのですが、まず注目されるのが成果です。採択プロジェクトの成果について今までは、HPや報告書で公表していましたが、もう一つみえにくいという声がありました。そこで、今年度から可視化を図り平成28年12月3日に口頭による成果報告発表会を開催いたしました。その結果、いずれの企画も当初の目的は達成しました。中でも「拓大つながりプロジェクト」と「SNSに気をつけよう」の企画の評価が

高く、発表会においてグランプリと準グランプリを受賞しました。精力的に活動された5団体の皆さん、本当にご苦労様でした。この体験が必ずや皆さんの将来にとって貴重な財産になっていくものと確信いたします。

また、各プロジェクトの反省点も注目されます。企画の認知度、メンバー要員の不足、スケジュール調整、下調べ、相手との調整不足、撮影技術の未熟さ、想定外の事態への対応などの反省点が挙げられています。

「失敗しない者は、つねに何事もなしえない」と語ったのはアメリカの国際法学者フェルプスです。失敗を恐れずアクションを起こすことが重要で、たとえ結果がパーフェクトでなくとも実体験から学ぶことも多いと考えます。例えば、情報の共有やコミュニケーション能力、予期せぬ問題の発生に対して対処方法を考え抜く力、綿密な下準備や打ち合わせ、PRの重要性等を理解し、今後の大学における知の練磨や、やがて始まる就職活動に生かしていただければ学チャレの目的は十分果たすことができたと考えます。今回がゴールではなく、本企画の経験を今後にも生かすことも重要です。

お陰さまで、今年度も学生チャレンジ企画を盛会裏に終了することができました。これも偏に学生を指導して頂いた指導教授の先生方、また企画を積極的に受け入れて頂いた行政機関、企業、各種団体のお陰と深く感謝しております。この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

結びに、本報告書をご覧いただき、学生チャレンジ企画がもつ意義を理解し、次年度へのチャレンジにつなげて頂ければうれしく思います。



第7回 学生チャレンジ企画奨励金授与式





拓大つながりプロジェクト

～知れば知るほど好きになる～

団体名

国際交流愛好会・国際イベント企画愛好会

代表者 商学部 国際ビジネス学科 4年 伊藤 伽奈
参加メンバー人数 19名

実施スケジュール

平成28年7月1日～11月14日

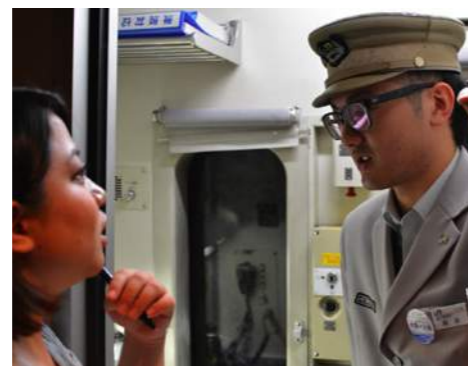
- 7月4日 室達やしろ先輩 インタビュー
- 7月5日 現役生インタビュー 約20名 @文京キャンパス
- 7月6日 現役生インタビューまとめ 打ち合わせ 訪問先スケジュールの作成・インタビュー内容の作成
- 7月9日 北海道連合会創設60周年 学友大会@札幌
- 7月11日 拓殖大学北海道短期大学 訪問
- 7月12日 豊富 酪農家白田先輩 訪問
- 7月16日 打ち合わせ
- 7月19日 OB・OGインタビュー 室達康宏先輩
- 8月6日 宮城県支部創立70周年総会 @仙台
- 8月14日 徳島県支部学友会 阿波踊り
- 8月15日 淡路島 永田秀次郎氏 (拓大第4代総長)お墓参り
- 8月31日～9月13日 インド 拓殖大学麗澤派遣団にて4名のOB・OG訪問
- 9月24日 紅陵祭に向けての準備①
- 10月1日 紅陵祭に向けての準備②
- 10月8日 紅陵祭に向けての準備③ (紅会との合同練習)
- 10月10日 桂太郎公のお墓参り
- 10月13日 学友会HP活動情報掲載
- 10月21日～23日 紅陵祭(展示)
(1)インタビュー記事の展示コーナー
(2)動画視聴コーナー
(3)現役生×卒業生 交流コーナー
(4)拓大秘蔵お宝コレクション・卒業アルバム展示コーナー
- 10月22日 紅会・吹奏楽部・チャアリーディング 同好会と合同発表
- 10月27日 ブラジル研究会OB・OG会
- 11月3日 拓殖招魂社秋季例祭に参加
- 11月14日 成果報告発表会の準備・現役生インタビュー

● 実施内容・成果

拓殖大学の建学の精神を受け継ぎ、世界で活躍する先輩方。そして、エネルギー溢れ、新たな国際人を目指す現役生。この2つを繋げることで“新たな可能性が生まれるのではないか”と考え、このプロジェクトを始めました。まず、私達は現役生と卒業生の繋がりについての現状を把握するため、現役生にアンケートを行いました。結果は予想以上に卒業生との繋がりを持たない学生が多く、その理由として繋がる手段がないというものがほとんどでした。また、今後卒業生との繋がりを持ちたいという学生も多く、私達の活動の必要性を感じました。

6～10月には卒業生を取材するため、多くの卒業生が集まる北海道連合学友会や宮城県学友会、徳島県学友会などの同窓会、インドやブラジル、スーダンなど国内外で活躍する先輩方約400名に会いました。どの先輩からも、拓殖大学は何を目指し歴史を歩んで来たのか、拓大の伝統とは何なのか、そして、今の私達現役生が何を考え進むべきなのか、多くの示唆をいただきました。先輩方の活き活きと語る姿はまさにフロンティア精神みなぎる憧れの拓大生像そのもので、改めて先輩方の存在が拓殖大学の魅力のひとつのだと実感しました。

紅陵祭では現役生に拓殖大学の魅力、先輩方の魅力を伝え、繋がりを持ちたいよう、



7月11日JR北海道の車内にて拓大の先輩と遭遇インタビュー。さすが北の大地である北海道の電車は、次の駅まで30～50分間隔ぐらいいり、ゆったりとした雰囲気の中での取材でした。

これまでの活動内容を記事や動画にまとめ発表、展示をしました。それ以外にも事前に募集した現役生からの質問に、卒業生が返事を書いて投函する“つながりポスト”を設置し、31組の手紙による繋がりを図りました。また、軽食を食べながら直接卒業生と現役生、未来の拓大生が気軽に交流出来るスペースも作り、「卒業生と現役生、拓大への受験を考えている高校生」それぞれ合わせて13組の世代を越えた交流も実現することが出来ました。

また嬉しかった出来事は、紅陵祭2日目に行われた紅会(拓大応援団OBの組織名)と現役生による合同発表会にて、約150人以上の先輩方前で「拓大つながりプロジェクトの活動を通じて感じた先輩への思いと、今後への決意」を発表したことです。その発表終了直後、多くの先輩方から激励とお褒めの言葉を頂きました。25人の先輩方から活動に対する評価アンケートに答えて頂くことができました。このアンケートは、第三者からの客観的なフィードバックとして今後の活動に活かせる大きな成果となるものでした。また、発表後、学友会の方々に、私たちの活動を応援するお気持ちとして「支援金」を頂きました。先輩方から正式に活動を評価して頂き「支援金」を頂いた事は、非常に名誉なことであり、チームの士気も更に高まりました。



8月6日宮城県支部総会にて大内幹会会長をインタビューした時の様子。お忙しい支部会の合間に、約30分のインタビューをさせて頂きました。輝かしい学生時代の思い出と、支部長としての熱い想いを聞いて胸が熱くなりました。



8月14日 徳島学友会にて2016徳島阿波踊りへ拓殖大学として出場しました。写真前列・中央の男性は学友会の会長である赤澤先輩です。この写真を終えた直後、2,000人以上の群衆を前に楽しく阿波踊りを踊りました。



10月21日 紅陵祭にて拓大つながりブースに来た国際学部1年の2人とプロジェクトメンバー・4年嶺杏理との交流風景。学生生活全般や、学友会についてなど今後の大学生活を充実してもらうべく熱心に先輩からの質問に答えました。

“絆”が現役生と卒業生との間に生まれたと私たちに実感させる成果だったと言えます。メンバー全体が今まで以上に自信を持って多くの現役生に“つながる”ことの魅力を伝えていけるようになりました。

今後の活動としては、活動メンバーを増やし、まだ拓殖大学の魅力に気づいていない多くの学生を巻き込むことで拓殖大学全体の活性化を目指します。

(詳しい内容は、Youtubeチャンネル「拓大国際化プロジェクト」にて動画配信中

<https://www.youtube.com/channel/UCpnlv8Ob5GDEAHe1ZSWL1DA>

● 反省点など

今回の私たちの大きな反省点として、インタビュー時と動画作成時の2つの場面が挙げられます。インタビュー時では、「取材者の人数不足」です。各学友会、100人規模の先輩方がいらしており、私たちの企画内容をお伝えすると、多くの先輩方がインタビューに快く承諾してくださいました。しかし、企画メンバーで学友会に取材に訪れたのは2人から4人。承諾して下さった先輩方に対して、取材側の人数が圧倒的に足りませんでした。そのため貴重な機会であったにもかかわらず、承諾して頂いた先輩方の中には、満足なインタビューが出来なかった方もいることが反省点です。

また、動画を作成する上での反省点が2点あります。1つ目はインタビューです。出演者と取材者の十分な話し合いができなかったため、インタビューが計画通りにうまくいかない事がありました。2つ目は映像編集作業です。編集後の構想が曖昧だったため、撮影後の編集作業やカットなどに時間がかかっ

てしまいました。それらを踏まえ、次の撮影前には話し合い、構想を練ることで改善しました。

今回の活動を通して、私たちの企画内容を認知してもらうことの難しさを痛感しました。当初、周知させるためには、効果的な動画を取り入れなくてはいけないと思っていました。しかし広報のツールとして動画を使うことは、機材の費用、動画作成の時間がかかり、多くの人が動画を見るには限らないということです。反対に、紅陵祭でブースを出し、アナログな方法で直接人に話して伝えることによって、想いや活動をしっかり認知してもらえました。

最後になりますが、この「拓大つながりプロジェクト」に携わって下さった関係者の方々、並びにご協力頂いた全ての方に、心より感謝申し上げます。どんどん若い下の代へと引き継ぎ、今後とも末長く、拓殖大学の更なる発展と活性化につながる活動をしていきますのでどうぞご支援ご協力よろしくお願い致します。

● 収支報告

支出総額 479,411円		奨励金 270,000円	
内訳	[収入] 拓殖大学学友会から支援金 ¥30,000	[自己負担金] ¥179,411	
	項目		小計
交通費	【北海道学友会】2名で参加 成田から新千歳空港まで		¥32,580
	豊富(白田先輩宅)から深川(北海道短期大学)		¥14,900
	深川(北海道短期大学)から札幌(新千歳空港)		¥2,060
	新千歳から成田		¥29,540
	【宮城県学友会】6名で参加 池袋から仙台		¥31,800
	仙台から東京(新幹線4名 バス2名)		¥62,250
	【徳島県学友会】4名で参加 行き 東京から香川まで(新幹線2名)		¥29,720
	東京から岡山まで(新幹線1名)		¥16,620
	羽田から徳島まで(飛行機1名)		¥28,294
	香川から徳島まで(電車2名)		¥2,640
	帰り 神戸から東京まで(新幹線4名)		¥56,640
宿泊費	【北海道学友会】 ビジネスホテル2名		¥10,000
	【宮城県学友会】 仙台国際ホテル1名		¥9,180
	【徳島県学友会】 ビジネスホテルワカバ2名(阿波踊りの前入りのため宿泊)		¥10,600
	旅館4名(翌日永田秀次郎先生のお墓参り同行のため宿泊)		¥29,200
交際費	徳島県支部学友会 会費4名		¥40,000
物品費	Final Cut Pro(動画編集ソフト)1点		¥35,000
	SDカード(動画記録のため)		¥20,120
	カメラ用品(動画撮影用のマイク接続用備品)		¥2,419
	文具代(インタビュー用)ホワイトボード・ホワイトボード用ペン		¥433
	ホワイトボードセット		¥324
	装飾品(養生テープ、画用紙、ペーパーカップ)		¥2,916
	写真プリント代		¥10,296
紅陵祭用備品	交流スペースの軽食代(飲み物、お菓子)		¥1,879
	合計		¥479,411

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書▶ <http://gakuchalle.jp/2016/kikakusho.html>
- 学チャレレポート▶ http://gakuchalle.jp/2016/gakuchalle_taku.html



高尾599ミュージアム

「自然から学ぶものづくり」

団体名

高尾599ミュージアム ものづくりイベント実行委員会

代表者 工学部 デザイン学科 4年 吉田 圭汰
参加メンバー人数 6名

実施スケジュール

平成28年7月14日～10月22日

7月14日	日比さん顔合わせ、材料相談
7月21日	商品試作完成・改良会議①
7月28日	日比さん間伐材オーダー最終打ち合わせ
8月2日	スタッフエプロン発注
8月3日	商品試作完成・改良会議②、 檜工房訪問、材料相談
8月4日	必要備品・材料買い出し
8月9日	間伐材受け取り
8月11日	必要備品・材料買い出し
8月12日	機材搬入
8月13日	高尾599ミュージアムにて イベント開催
8月26日	日比さん協力御礼
8月31日	反省会
10月22日	紅陵祭でのワークショップ

● 実施内容・成果

7月14日に高尾山の間伐材を提供していただく日比さんと八王子市役所観光課の内田さん、竹末教授と私たちチームで初の顔合わせを行った。高尾在住の日比さんはご自宅の関係で高尾山の間伐材を所有しており、それを個人的に分けてくれるということだった。この打ち合わせで実際に使う会場の広さや材料が明確になり、いよいよ本格的に準備がはじまった。

早速頂いた間伐材のサンプルを使って試作を行った。サンプルの中には栗やツゲ、椿、檜など多様な樹種があった。またベニヤ板などは違い生きた木のため、同じ樹種でも具合が違い安定したレーザー加工が難しい事が分かった。安定した木材ばかり扱ってきた学生達には新しい発見だった。基本的には子供の手描きのイラストをスキャナーで取り込み、それを材料にレーザー加工することに決まった。

試作品を教授や協力会社である協賛法人産学連携研究センター内「一般社団法人ファブデザインアソシエーション(FDA)」の方々に見てもらい、意見をいただいた。小学生をターゲットにしているため、あまり難しい説明や加



商品の試作品

工にならないよう試作を重ねた。

イベント当日、午前中はまったくお客さんが来なかったため不安になったが、午後からは人がどっと押し寄せ、お客さんを待たせてしまうこともあった。初日の反省を活かし、2日目は作業の効率化を計り、スムーズに行えた。



イベント中の様子



みんなで最後に集合写真

紅陵祭での様子

また10月22日に文京キャンパスで開催された紅陵祭でも実際に実演(ワークショップ)を行い、20名程度のお客様に体験して頂いた。来場者はレーザーで自分の名前が彫り込まれる様子を楽しそうに眺めていた。参加者は主に親子や留学生が多く、また学内の職員の方にも関心を持って頂いたのは大きな収穫になった。デザイン学科のものづくりの様子や楽しさが学外だけでなく学内にも伝えられ、良い機会となった。



紅陵祭での様子

● 反省点など

課題点	改善策
レーザー 彫刻の際の位置出しと命令の送信に時間がかかり、結果レーザーの作業時間がボトルネックになる。どうしても2日間で100個程度が対応できる限界値になってしまう。もったいない。 お客さんがレーザー加工と受付の場所の違いがよくわかってない。 枠の色がペンと同じだからスキャン後の加工が大変。	①商品開発の段階でなるべく位置合わせ用の治具を作れるようにしておく。②PCをLANケーブルの使えるものに変える。 受付とレーザーの場所は近い方がいい。 赤ペンで描いてもらう。
受付 受付で選ぶことが多くてお客さんが戸惑っていた。	もっと選択肢が少なくていい。(ネックレスの紐)
客対応 説明書はテーブルにあったが、読まれずに説明した。 子供がレーザー加工を見ようにも背が小さく見にくそうだった。 子供が何を描けばいいかわからなく、困っていた。	説明書システムの廃止。 踏み台を用意する。 アイディアとして、図鑑を用意したら良いのではないか。
その他 サンプルのクオリティが高くて子供が書くのをためらってしまう。 ワークショップの場所だとわかりにくかった。	もっと可愛らしい感じのサンプルに仕上げる。 垂れ幕や看板でもっとアピールした方がいい。
メニューが多く、レーザーの説明もないため、何をするかパッと見分からなかった。 1日で対応できる数と売り上げが足りない問題	メニューの数を減らす。 1,000円の商品に絞る。(他ブースでは、バターナイフが1,000円で売られていた)

● 収支報告

支出総額 194,285円		奨励金 185,000円	
内訳			
項目	小計	項目	小計
ブース設営材料・商品材料		ブローチパーツ代	¥1,278
ウッドビーズ代	¥537	スプレー糊	¥3,868
プリント代	¥350	品代	¥4,342
エプロン代	¥23,590	レジン代	¥1,620
サンプルスタンド代	¥756	接着剤	¥658
スワロフスキー代	¥2,079	ハンドドリル代	¥1,440
昼食代	¥1,052	試作品代	¥2,777
木毛代	¥384	ブース設営必要備品	¥1,404
ネックレスパーツ代	¥1,932	プリンター代	¥36,819
包装代	¥9,974		
ストラップパーツ代	¥3,473	レーザー加工機運用費	
革紐代	¥2,808	レーザー加工システムレンタル(3日分)	¥88,344
レジン用ブラックライト代	¥4,800		
		合計	¥194,285

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書▶ <http://gakuchalle.jp/2016/kikakusho.html>
- 学チャレレポート▶ http://gakuchalle.jp/2016/gakuchalle_takao.html



打ち合わせを行った高尾599ミュージアムの写真



試作とその打ち合わせの様子





SNSに気を付けよう

ロールプレイングで学ぶモラル・リテラシー

団体名

守山3年ゼミナール

代表者 政経学部 法律政治学科 3年 望月 崇暉
参加メンバー人数 20名

実施スケジュール

平成28年7月13日～9月13日

7月13日	拓殖大学にてSNS講習
7月14日	文京区立第六中学校にて打ち合わせ
7月20日	アンケートの実施
7月22日	アンケート回収
8月前半	グループに分かれ事前準備
8月後半	発表に向け練習開始
9月8日～10日	ゼミ合宿にて守山ゼミ生の前でリハーサル
9月12日	直前練習
9月13日	文京区立第六中学校にて活動実施

● 実施内容・成果

私たち守山3年ゼミは、昨年先輩たちが高齢者向けの「オレオレ詐欺の被害防止」の寸劇を行ったことから、今年をあえて若い世代に目を向け、誰もが使っているSNSに焦点を当て、子どもたちがSNSで犯罪に巻き込まれないようにする予防の観点から、子どもたちに講習を行うこととした。まず、今回の企画を行うにあたって守山先生と東京都や警視庁の方に相談し、大学地元の文京区立第六中学校が実施校と決まった。その後、以下のような準備を経て企画を実施することができた。



アンケート結果発表



犯罪をわかりやすく伝えるためのロールプレイング(寸劇)

7月13日 東京都治安対策本部の職員の方と講師が来校し、実際に小学生・中学生向けにどのようなSNS講習を行うのかをデモンストレーションした。

7月14日 警視庁生活安全総務課と本富士署の警察官とともに文京区立第六中学校の先生と打ち合わせを行った。発表の内容や実施場所などを決めた。また、事前に講習対象者へのSNS使用に関するアンケートも実施することとなった。

7月20日 文京区立第六中学校でアンケートを実施した。

7月22日 文京区立第六中学校を訪問し、アンケートを回収した。

8月前半 ゼミ生をロールプレイング・パワーポイント・資料作成・小道具グループに分け、各班が随時集まり講習の準備を行った。

8月後半 全員で週1回のペースで集まり、実際の講習の段取りや手続きを確認したり修正点の確認や発表時の役割を決定した。

9月8日～10日 ゼミ合宿で実践的なリハーサルを実施した。ゼミ2・4年生の先輩後輩たちにも発表内容をみてもらい、率直な助言をもらった。その結果、まだ不十分な点が多く、再度リハーサルを行う必要があ



発表風景

ることを感じた。

9月12日 最終的な確認のため、再度リハーサルを行った。

9月13日 発表当日、発表前にも警視庁や中学校の先生方に意見をもらいながら、事前リハーサルを行い、開始直前まで修正するのにかなりの時間を要した。

いよいよ本番が始まり、一同緊張の中、予定どおり順調に講習が進み、後半部分では、中学生にもクイズなどに参加してもらい、会場の一体感を生み出すことができた。最後に会場の警視庁や学校の先生方にもお褒めの言葉を頂き、ゼミ生全員が満足できる内容となった。



発表成功記念写真

● 反省点など

基本的にはチャレンジ企画の実施は成功したと考えているが、今後に向けて反省点もあり、とくに次の点は検討すべきだと思われる。

①チャレンジ企画の実施は夏休みとなっており実施期間が短いことから、今回実施校を探すのが困難であったが、守山先生や警視庁、東京都の協力がああり、何とか探すことができた。本来数回程度の実施を予定したが、先方の学校の行事と合わせる必要があり、実際の学校からの要望では学期末が多く、今回実施は1回で終わったことは残念であった。

②私たちの企画は他の学校の施設を借りて行う必要があったため、こちらが準備した機器や小道具などが実際の会場と合わないことが多くみられた。とくに、今回、実施した学

校の都合で突如会場が変更となり、そのため、こちらがリハーサルなどで準備した機器類が使用できなかつたり、コード類が不足したりして、当日は、直前まで混乱した。これはどちらの責任でもないが、このような緊急事態にも事前に予測して十分準備しなければならないという教訓を学んだ。

③私たちは日頃、大学生同士の接触が少なく、どうしても大学生の目線で考えがちであるが、今回は中学1年生が対象ということもあり、発表で使う言葉や専門用語には気を使った。実際には発表中に生徒たちの間では理解できないような様子もみられたので、今後は中学生レベルの内容がどのようなものであるかを十分に考える必要があると思った。

● 収支報告

支出総額 190,883円		奨励金 190,000円
内訳		
	項目	小計
交通費	茗荷谷～東大前往復(実施日) 20名	¥6,600
	茗荷谷～東大前往復(打ち合わせ) 3名	¥990
	タクシー代 茗荷谷～文京区立第六中学校	¥1,450
機器購入費	プロジェクター	¥105,526
	プロジェクター・バッグ	¥6,972
	スマホ・サンプル	¥12,150
	LANケーブル	¥850
文房具・小道具	HDMIケーブル	¥3,531
	ブラカード	¥3,780
特大ポスター作成費	事務用品・小道具	¥9,590
	参考資料費	¥28,916
	図書8点	¥10,528
		合計 ¥190,883

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書▶ <http://gakuchalle.jp/2016/kikakusho.html>
- 学チャレレポート▶ http://gakuchalle.jp/2016/gakuchalle_moriyama.html



文京区立第六中学校での発表風景



HOW TO SURVIVE IN JAPAN

動画で伝える外国人留学生のための日本留学成功攻略ガイド

藤本ゼミナール
 団体名 代表者 外国語学部 英米語学科 3年 丸本 航平
 参加メンバー人数 12名

実施スケジュール

平成28年6月3日～平成29年1月13日

- 7月15日 ゼミで打ち合わせ&アンケート制作
- 8月19日 アバマンショップにて社員の方と動画制作の打ち合わせ 八王子夕方から新宿で打ち合わせ。
- 8月23日 アバマンショップにて動画撮影
- 8月30日 三つのグループに分かれて動画撮影の打ち合わせ。
- 10月21日～23日 紅陵寮にて学チャレの宣伝動画&ポスターを出展
- 10月後半～11月前半 グループごとで留学生のための動画撮影&編集完了
- 11月3日 不動産での手続きの動画(日本語version)をYouTubeにて投稿
https://www.youtube.com/watch?v=MWEkAW_hB24
- 1月13日 動画完成披露会 八王子国際キャンパス

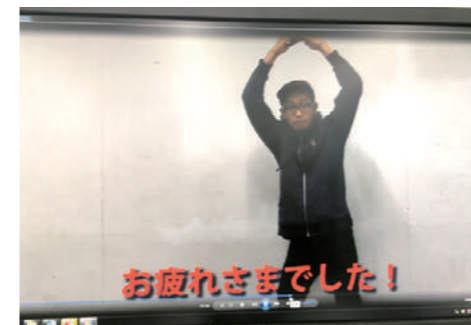
● 実施内容・成果

今回、藤本ゼミナールでは「HOW TO SURVIVE IN JAPAN 動画で伝える外国人留学生のための日本留学成功攻略ガイド」という動画制作を行った。題名の通り拓殖大学に入学する留学生だけでなく、日本に留学にする全ての留学生が日本での生活で困らないためのマニュアル動画を制作した。

7月に行われたゼミでは留学生が困りうることを考え、実際に私たちのゼミに所属している中国人留学生の体験談など様々な情報を基にしてアンケートを作成した。アンケートは項目別になっており、それぞれ経済的なことや生活習慣、文化の違いなどをテーマにした10個の質問を取り入れ、ネット上のアンケートページを使い、なるべく多くの留学生に答えてもらうためにシンプルなチェック式のものを作成した。ゼミにいる留学生の友達や他大学の友達など多くの外国人にアンケートに答えてもらい62人の留学生からア



先輩後輩とのやり取り動画



友人関係についての動画

ンケートを回収することができた。

【アンケートのURL】

<https://docs.google.com/forms/d/1n9oqlbNRXH3qa6EJO0DV10Sbc3qHaMN eAnbj2dqtANc/edit>

そして、アンケートの結果を基にして留学生が日本に来た時に困りうる事を順位付けし、上位3つに絞りその内容に沿った動画制作を行うことにした。

8月には就職課の来田さんのご紹介で不動産会社のアバマンショップエスエストラスト八王子店に撮影に協力して頂いた。そこで

は留学生が来日した時に不動産会社で部屋探しをするときの注意点や日本にしかない物件を借りるときのルールなどの情報をまとめた動画撮影を行った。撮影の2日前にアバマンショップを訪ねてそちらの社員の方に企画の趣旨を説明し、ご出演をお願いしたところ快く承諾して頂いた。その後、念入りに打ち合わせを行い当日はスムーズに演じて頂き無事撮影を終えることができた。

動画サイトにこのプロジェクトのトレーラー画像をアップロードした。

<https://youtu.be/Ti7hu700NMU>

● 反省点など

今回、自分自身動画撮影を初めて試みたということもありアバマンショップでの撮影後、動画を家で確認したところ一部の動画が手ぶれで見にくかった。これではせっかく協力してくれたアバマンショップの方々そして出演してくれた人に迷惑をかけてしまうこともあると感じた。そうならないためにも撮影技術の見直し、そして向上をしていきたいと思う。あとは動画内で雑音が入り過ぎてしまったため、声が聴きとれない動画があった。

夏休みの活動では3年生ということもあり、ゼミのメンバーはインターンシップや資格試験、帰省など様々な用事が重なってしまい、集まるのがとても大変だった。また、夏休みということもありみんな気が緩みがちで一人でいろんなことを抱え込む時期でもあった。その中でみんなにやる気を出させたり、協力してもらうことはとても困難な事だった。人をまとめ、先導することの大変さを身に染みて感じた。

こういった事態を防ぐためにもなるべく早い段階で夏休みの活動日程を授業(ゼミナール)などでメンバーが集まる時に共有し

活動日程を決めてしまう方が良いと思う。

またグループに分かれた活動を行うのでそれぞれの制作動画を見たり、自分が上手くいかなかったことなどを基にグループでの動画撮影技術の向上につなげたり、シナリオ制作などで留学生が困りうるであろうことをより明確にして企画を行っていきたいと思う。

- ・カメラを購入しなかったことに関して
 我々がカメラを購入しなかった理由はより良い動画を提供するために動画編集ソフトなどカメラ以外の経費がかかってしまった。当初の予定では購入する方針で話を進めていたが、画質の良いカメラを購入しようとしたときに、他の重要な機材が予算内でどうしても購入できないことが判明したため。大学からカメラを借りるという選択に至った。このことに関しては我々が事前によく機材の値段について調べていれば防げていたことだ。もし来年度、後輩たちに学生チャレンジ企画を受け継いでもらう時は企画書には趣旨だけでなく経費の使い道や計画性についても入念に考察して提出するように勧める。
- ・余った1,562円は大学に返金した。

● 収支報告

支出総額	148,438円	奨励金	150,000円
内訳			
	項目	小計	
購入費	動画編集ソフト×3	¥46,330	
	SDメモリ用USBハブ×2	¥2,440	
	SDカード×3	¥10,213	
	撮影用広角レンズ×2	¥4,560	
	文房具代(スケッチブック、ペン、のり)	¥2,009	
	三脚	¥4,190	
	マイク	¥7,870	
	DVDドライブ	¥6,240	
	小道具	¥756	
	ロゴ制作費×100枚	¥34,600	
	写真代	¥360	
交通費	8月19日30日(どちらも新宿)の交通費 往復×2日間	¥24,320	
	9月以降	¥4,550	
合計		¥148,438	

※当初の計画と一部変更があり、残金¥1,562円は大学に返還。

▶ ホームページ掲載

- 実施企画書▶ <http://gakuchalle.jp/2016/kikakusho.html>
- 学チャレレポート▶ http://gakuchalle.jp/2016/gakuchalle_fujimoto.html



オープニング撮影 アバマンショップ前



撮影のリハーサル風景 アバマンショップ前

下記の10項目から、自分が生活している上で困っていると思うことを選択してください。(複数回答可)

- 住居のこと
- 経済的なこと
- 学習に関すること
- 日本語のこと
- 日本人との関係のこと
- アルバイトのこと
- 就職・進学のこと

留学生のアンケートの一部 グーグルアンケート



アバマンショップ前



完成披露会当日の様子



繋がる4,330kmカンボジア 読み聞かせプロジェクト

実施スケジュール

平成28年6月1日～12月19日

6月1日 ～7月4日	ゼミ活動での打ち合わせ
7月11日	テスト撮影
8月1日	撮影の打ち合わせ
8月9日	撮影
9月6日	撮影
9月19日	撮影
11月、12月	Facebook、 YouTubeへの投稿

● 実施内容・成果

カンボジア教育へ貢献する国際交流、及び日本文化の海外発信を目的としてこのプロジェクトを企画しました。4年ゼミ長の金田航弥が文部科学省の「トビタテ!留学JAPAN」を利用して、2016年4月からカンボジアのメコン大学に在籍し、彼を窓口として我々はカンボジアに興味を持ち、現地の若者との交流を少しずつ持ち始めました。「日本を理解してもらい、現地学生との交流による相互理解」をキーワードに、日本に関する図書を私たちが分かりやすく解説し、それを10分単位の映像で現地の大学生に紹介します。さらに、紹介した図書の寄付と共に、広く浅く日本のことを日本人大学生の視点から紹介し、ネットでの交流を通してさらに異文化理解を深めていくことを狙いとしました。カンボジアはこれから発展する国としてまだ多くの支援が必要とされている国です。多くの子供が義務教

育を受けられず、初等学校の最終学歴においては日本の7割にも達していません。そのため、カンボジアは、3月11日を国民読書の日に制定し「読書は教育の鍵」とカンボジア教育省から教育向上に向けて動き出している最中です。

そこで私たちは、映像中心という時代の流れに沿い、日本に関する本を自ら分りやすく要約し、動画を作成。また現地の学生が興味のある日本の学生のライフスタイルなどを動画で作成しました。そのため現地にいる金田を通して、動画で直した方がいいところなどの意見交換を行いました。

12月1日にメコン大学の講堂で自分たちの動画の視聴会を実施しました。制作した動画はカンボジアのFacebookとYouTubeに投稿して多くの方に自分たちの活動を知ってもらうように取り組みました。

メコン大学の日本語ビジネス学科の先生

鄭偉ゼミナール

団体名

代表者 政経学部 法律政治学科 4年 草野 勇太
参加メンバー人数 24名

● 反省点など

夏休み中の撮影についてのスケジュール日程をしっかりと決めるべきでした。スケジュールをしっかりと決めていなかったため、撮影を行う際にゼミメンバーの集まりが悪いことが何回もありました。また動画を撮った後の編集をする際に多くの時間が必要になるため、夏休みに入る前から準備と撮影を行うべきでした。活動期間内に3年生の撮影も終わっていないところも反省点です。

最初の予定では、多くの本の要約をしようとしていたのですが、実際は、一人一冊の要約で終わってしまい思うように進みませんでした。計画していたプラン通りに実行に移せなかったところもスケジュールをちゃんと考えて行動すればよかったと感じます。

また当初予定していた現地の学生とのネット交流は、現地学生が午前中で大学が終わると午後の時間は、出稼ぎに行ってしまうため自分たちのゼミの時間との日程が合わず実現することができませんでした。現地の学生の現状を考えずに決めてしまったことが反省としてあげられます。

また当初予定していた現地の学生とのネット交流は、現地学生が午前中で大学が終わると午後の時間は、出稼ぎに行ってしまうため自分たちのゼミの時間との日程が合わず実現することができませんでした。現地の学生の現状を考えずに決めてしまったことが反省としてあげられます。



9月6日 会議室 打ち合わせ中の風景



10月上旬 現地の学生に映像を視聴してもらっている様子

● 収支報告

支出総額 158,638円 奨励金 200,000円

内訳		小計
項目		
動画撮影の機材	MacBook 動画編集に使用	¥148,284
	ポータブルHDD 撮影をした動画の保存に使用	¥7,480
	USBメモリ-32G 撮影動画の保存、移動に使用	¥2,874

合計 ¥158,638

※当初の計画と一部変更があり、残金¥41,362円は大学に返還。

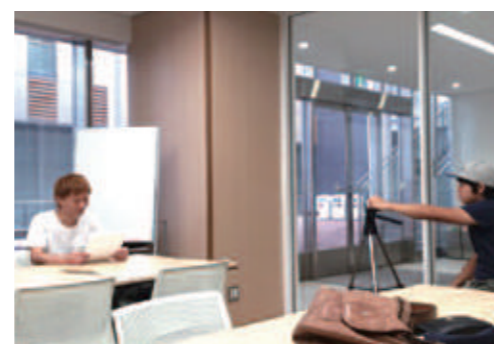
▶ ホームページ掲載

○実施企画書▶ <http://gakuchalle.jp/2016/kikakusho.html>

○学チャレレポート▶ http://gakuchalle.jp/2016/gakuchalle_tei.html



8月9日 自習室での撮影風景



8月9日 自習室での撮影風景



9月19日 C館511 打ち合わせ、撮影風景

にも興味を持ってもらい、現地での視聴会を実施したところ、現地の学生から日本の文化、本に対する興味、関心向上に貢献できました。

現地の日本語学科の先生からは、日本の大学と交流する機会をもっと増やしてほしいなどと評価をいただきました。Facebook、YouTubeなどの投稿も現地の学生に共有してもらうことで多くの学生に観てもらうことに成功しました。

12月19日までの活動は、新しくできた動画をメコン大学での視聴会と完成した動画をYouTube、Facebookに投稿しました。

[YouTube URL]

<https://www.youtube.com/watch?v=-x5bs0S51OM&sns=em>

<https://www.youtube.com/watch?v=JJKFDJ7SVo&sns=em>



成果報告発表会

優秀団体による成果報告発表会 グランプリ、準グランプリが決定!

12月3日(土)、文京キャンパスで第7回優秀団体による成果報告発表会が行われました。
今年度の活動の集大成として10分間の発表と審査委員からの質疑応答で、活動の成果を報告しました。
発表の後は、審査委員会が開催され、その結果グランプリに国際交流愛好会・国際イベント企画愛好会、
準グランプリに守山3年ゼミナールが決定しました。

先輩と現役学生を“つなぎ” 拓大の魅力再発見!!

グランプリ

国際交流愛好会・
国際イベント企画愛好会



委員長
講評

もっとも評価が高かった点は、チャレンジ力と実行力です。さらにメンバーが、非常に楽しんで活動していました。人と人とのつながりが希薄になってきた時代に「つながり」をテーマに、先輩と学生を繋いでいるという努力が非常に評価できました。

代表挨拶

商学部 4年 代表 伊藤 伽奈
非常に光栄なグランプリという賞をいただきありがとうございます。私達は、拓大に対する強い想いを形にすることができ、またこうして発信することが出来たことを非常に嬉しく思っています。今後は、後輩に繋げることを考え、引き続き活動していきたいと思っています。

みなさんにとって
学チャレとは?

やりたいことや想いを形にできる場です。
活動を通じて自分を成長させることができます。

参加型講座で正しいSNS利用を中学生に伝える

準グランプリ

守山3年
ゼミナール



委員長
講評

社会問題にもなっているSNSでの被害を中学生を対象に、さらに参加型のプロジェクトで活動し、成果をあげた点が非常に高く評価されました。今後は、動画などを作って全国の中学生、高校生に配信出来るような取り組みも期待しています。

代表挨拶

政経学部 3年 代表 望月 崇暉
このような賞をいただけるとは思ってなかったので大変嬉しいです。犯罪をテーマに活動しているので、これからも中学生だけではなく、幅広い年代にこの活動を広げていけたらと考えています。

みなさんにとって
学チャレとは?

日々、大学で学んだことや自分が学んだことを外部へ発信できる素晴らしい活動だと思っています。一人では出来ないことにチャレンジできます。

優秀団体メンバー一覧

国際交流愛好会・国際イベント企画愛好会

商学部国際ビジネス学科	4年	伊藤 伽奈
外国語学部スペイン語学科	4年	嶺 杏理
商学部国際ビジネス学科	3年	菅野 愛美
商学部国際ビジネス学科	3年	神野 絵里菜
商学部経営学科	3年	アルサーレム モハメッド
商学部経営学科	2年	ラゾ コレア ベドロ セバスチャン
商学部国際ビジネス学科	2年	高瀬 まどか
商学部国際ビジネス学科	2年	虻川 大樹
商学部国際ビジネス学科	2年	川上 峻
商学部国際ビジネス学科	2年	カガンディ オマル アブドアルカド
国際学部国際学科	2年	ナガタ ライサ マリー ハルドヴィン
商学部国際ビジネス学科	4年	中野 光二
商学部経営学科	3年	アルム-サ モハメッド アブドムホセ
商学部経営学科	3年	ヒンディ モアヤド オマル エム
商学部経営学科	3年	浅井 悠佑
商学部経営学科	3年	カン シャウ
商学部経営学科	3年	ムフティ アブドラ アブドウルアズイズエ
商学部国際ビジネス学科	4年	楊 文莉
商学部国際ビジネス学科	3年	増田 真如

高尾599ミュージアム実行委員会

工学部デザイン学科	4年	吉田 圭汰
工学部デザイン学科	3年	富永 茉衣
工学部デザイン学科	4年	中村 絢音
工学部デザイン学科	4年	菅原 翔平
工学部デザイン学科	4年	志賀 華
工学部デザイン学科	4年	深水 桃子

守山3年ゼミナール

政経学部法律政治学科	3年	田島 知明
政経学部法律政治学科	3年	濱松 直也
政経学部法律政治学科	3年	文 志元
政経学部法律政治学科	3年	石附 恵美
政経学部法律政治学科	3年	糸井 雄哉
政経学部法律政治学科	3年	稲川 皇樹
政経学部法律政治学科	3年	上田 凜起
政経学部法律政治学科	3年	越阪 厚
政経学部法律政治学科	3年	菊池 七海
政経学部法律政治学科	3年	小菅 大輔
政経学部法律政治学科	3年	小柳 あずさ
政経学部法律政治学科	3年	日色 渚
政経学部法律政治学科	3年	保坂 友之
政経学部法律政治学科	3年	望月 崇暉
政経学部法律政治学科	3年	渡辺 純平
政経学部法律政治学科	3年	渡邊 由規
政経学部経済学科	3年	大崎 将悟
政経学部経済学科	3年	檜山 修也
政経学部経済学科	3年	松崎 聡
政経学部法律政治学科	3年	金子 晶

藤本ゼミナール

外国語学部英米語学科	3年	吳 琳
外国語学部英米語学科	3年	張 鑫竹
外国語学部英米語学科	3年	石井 ちはる
外国語学部英米語学科	3年	大高 一朗
外国語学部英米語学科	3年	岡田 佳大
外国語学部英米語学科	3年	小澤 美月
外国語学部英米語学科	3年	小野澤 美智
外国語学部英米語学科	3年	高橋 美雨
外国語学部英米語学科	3年	高谷 幸治
外国語学部英米語学科	3年	田中 綾香
外国語学部英米語学科	3年	野口 紗希
外国語学部英米語学科	3年	丸本 航平

鄭偉ゼミナール

政経学部法律政治学科	4年	草野 勇太
商学部国際ビジネス学科	4年	金田 航弥
商学部国際ビジネス学科	4年	上野 彩香
商学部国際ビジネス学科	4年	伊藤 梢
政経学部法律政治学科	4年	竹内 大稀
商学部ビジネス学科	4年	三井 亮太
政経学部法律政治学科	4年	黒羽 良樹
政経学部経済学科	4年	中村 圭吾
商学部経営学科	4年	加藤 弘隆
商学部会計学科	4年	樋口 大輝
商学部経営学科	4年	吉本 仁
商学部経営学科	3年	浅野 茉莉子
商学部経営学科	3年	三吉 沙羅
商学部会計学科	3年	濱田 佳穂
商学部国際ビジネス学科	3年	大関 香菜
商学部会計学科	3年	竹治 明菜
政経学部経済学科	3年	会田 貴波
商学部経営学科	3年	岡田 健太郎
商学部経営学科	3年	伊藤 湜佑
商学部経営学科	3年	小野 幸樹
商学部国際ビジネス学科	3年	渡邊 恒星
商学部経営学科	3年	謝 天
商学部国際ビジネス学科	3年	飯岡 大輔
商学部会計学科	3年	間 美佐紀



国際交流愛好会・
国際イベント企画
愛好会

鄭偉
ゼミナール

守山3年
ゼミナール



成果報告発表会での様子